

全国協議会 ニュース

2016年12月1日発行 第294号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：野村正満 題字：仲田順和（会長）
http://www.marow.or.jp E-Mail:office@marow.or.jp

変化し成長を続ける世界の骨髄バンク コーディネートと移植状況

WMDA (世界骨髄バンク機構)の秋季会議が11月9日～10日アメリカ・ミネアポリスで開催され、各国から関係者400人が参加して、情報の交換と意見交換が行われました。この会議には、岡本真一郎氏(日本骨髄バンク理事・国際委員会委員会)と日本骨髄バンク事務局員が参加し、11月21日の業務執行会議にその概要報告がありました。今後、日本の骨髄バンク事業に参考となると思われる点を紹介します。

● WMDA：世界52カ国・地域の76ドナー登録機関と53さい帯血バンクが参加、ドナー登録数2886万人、さい帯血保存数71万個、移植累計数121万件

● IT技術活用によるドナー募集やコーディネートの進化

「YouTube」動画によるドナー募集や、スマホを軸としたコーディネートの進化が世界規模で進んでいること。若年層に対し郵送(紙)方法は、費用対効果では限界であり早急な発想の転換が必要。家族等の反対を未然に防ぐためNMDP(アメリカ)では、「家族向け、パートナー向け、子供向け、友達向け、雇用主向け、先生向け」という6種類のオンラインカタログを用意しており、先行事例として注目された。

● KMDP(韓国)におけるドナーリクルートとコーディネート

ドナーデータは、年2回連絡先が定期的に更新される。ドナーリクルートは5つのドナー募集团体が活動実行しており、実績により助成金の配分を決定。大学には、学生のボランティアグループがありチームで募集活動を実施。ドナー登録後1～2日後にテキス

トメッセージを送り、登録と提供意思の確認が取れたドナーの検体のみ検査し、それ以外の検体は廃棄。コーディネート確認検査採血は、提携施設で60%が実施されているが、ドナーの学校や職場等に出向いての採血も実施。確認検査の同意は電話による口頭確認のみ。

ドナーとのコーディネート連絡は、カカオトーク(日本のLINEと同様のメッセージ送受信機能)、Eメールでのやり取りに加え、「電話を下さい」等のメッセージを送信し、携帯電話で連絡を取っている。

● ハプロ(血縁半合致)移植とさい帯血移植の動向

ハプロ移植は増加傾向にあり、アメリカではここ5年間で約3.2倍に増加しているが、他の移植ソースに比べ優位性を示すデータはまだ少ないとの報告。非血縁移植との比較では、時間と費用面でハプロ移植が優位とされたが、生着不全やGVHDの発生が高いと報告された。さい帯血移植は、ここ5年間日本を除く世界各国で減少傾向にある。

I 2015年の新規ドナー登録数ランキング

1 ドイツ(ZKRD)	775,174人
2 アメリカ(NMDP)	515,890人
3 ブラジル	342,330人
4 中国(CMDP)	166,182人
5 ポーランド	139,578人
※参考 日本(JMDP)	28,308人

ご寄附のお願い

骨髄バンクのボランティア運動と患者さんの支援活動をするためには、安定した資金が必要です。しかし、資金難で困っています。みなさまからの善意のご寄附を心からお願い申し上げます。当全国協議会への寄附金は「寄附金控除」の対象となります。寄附口座は、4面下部に掲載しています。

II 2015年世界の移植ソース別の供給数

末梢血幹細胞	12,839件(前年比 +337件)
骨髄細胞	4,067件(前年比 -82件)
さい帯血	3,413件(前年比 -536件)

III アメリカの移植件数

	2010年	2015年
血縁者間移植	2500件	2500件
ハプロ移植	250件	800件
非血縁者間移植	3000件	3800件
さい帯血移植	800件	700件

(件数は概数、血縁・非血縁はBM、PBの合計数)
※アメリカでは、骨髄移植20%、末梢血移植80%程度との報告

参考 日本の移植件数

	2010年	2013年	2015年
血縁者骨髄移植	448件	300件	未発表
血縁末梢血移植	662件	737件	未発表
非血縁者間移植	1213件	1360件	1268件
さい帯血移植	1021件	1159件	1266件

(血縁者は、学会データセンター集計数)

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

《財団マンスリーJMDP(11月15日発行)より抜粋》

■日本骨髄バンクの現状(2016年10月末現在)

	9月	10月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,593	3,464	467,100	683,566
患者登録者数	247	237	3,048	49,379
移植例数	116	103	—	20,053

■10月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/827人、献血併行型集団登録会/2459人、集団登録会/119人、その他/59人

■10月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 3,365人/20代 70,352人/30代 140,674人
40代 199,311人/50代 53,398人

■10月の20歳未満の登録者373人

■10月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：236件

(注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

白血病フリーダイヤル 0120-81-5929

毎週土曜日10時から16時まで、治療や闘病生活のお悩みのお相談をお受けします。第2・4土曜日には専門医に直接相談できます。

ソニー生命がサポートしています。

若年層に向けた普及啓発活動について 愛知県における現状と取り組み

あいち骨髓バンクを支援する会 北折健次郎

骨髓バンクが発足して25年が経過し、登録された方の累計は68万人を超え、現在登録されている方も47万人に近づいている。しかし登録されている年齢構成をみると、40代が主流であり、20代、30代が少ない。このままの状況が続けば、将来的に55歳の年齢制限で卒業される方が増え、ドナープールの減少は必須と思われる。愛知県は、日本で早くから骨髓バンク運動が発足したこともあるためか、平成24年11月をピークに減少が始まった。

その現状を打開すべく平成27年1月から献血ルームでの呼びかけを開始し、一定の効果をあげている(図1)。しかし、献血ルームの活動に力を入れても、献血そのものが若年層の参加が少ないため、若年層対策としては効果的ではないことも予想される。

過去3年間の愛知県内での年齢別新

規登録者数(図2)では、40代よりも20代前半が多く登録されている。これは看護学校や大学での事前説明会と献血併行型登録会によるものと思われる。献血当日の説明のみでは受付から献血までに時間がかかり、血液センター側としても流れが滞り、敬遠されがち傾向は否めない。

また、当日突然呼びかけても若者の関心が低く、登録にはなかなか結びつかない可能性もある。しかし、事前に授業の中で「命のボランティア」としての骨髓バンクセミナーを開催し、事前に説明を行っておけば、当日の献血受付はスムーズに行われ、血液センターとの関係も保たれる。

骨髓移植を経験した患者さんや、骨髓提供ドナーと一緒に、様々な思いを伝えることにより、骨髓バンクのみならず献血にもより関心を持っていただく事が可能となる。骨髓バンクボランティアが、献血ボランティアとして献

血セミナーを行う事により、実際に輸血を受けた患者さんの生の声を学生たちに届けることが出来る。さらに、若年層とは直接関連はないものの、一部の保健所では、一つのイベントで効果的な登録者

数が得られており、献血同様、呼びかけがいかに重要で大切かということも実感している。(表1)

私達も、ドナー登録のみを訴える活動ではなく、それにより得られる感動や効果を、直接若者たちに伝えられるような活動方法に切り替えていく必要がある。若年層の協力が少ないという、私達と同様の問題を抱えている血液事業とともに、お互いがwin-winの関係が築ければと願う。

また、効果的な若年層対策が行われている他府県のボランティア団体等とも、もっとお互いに情報交換を行い、いいところを取り入れて活動していきたい。

「若者で作る ～若者からの発信」



10月10日(月・祝)、名古屋市東文化小劇場にて、あいちの会定例の骨髓バンク普及啓発イベント「～みんなで“骨髓バンク”を考えよう～」を開催しました。

今回のイベントは、「若者で作る」をモットーに、メインMCからサブMC、出演者のすべて大学生・専門学校生で構成し、「若者からの発信」を行いました。あいちの会としては初めての試みで、エンターテイメント集団

表1

イベント名(登録会形式)	担当部署	登録者数
K市産業フェスタ(2日間)	K保健所	25
Kまつり(2日間)	K保健所	46
N看護専門学校(事前授業併用型・一般献血)	N保健所	23
A医科大学学園祭(事前授業併用型)	S保健所	6
N大学Tキャンパス学園祭(事前説明型)	C保健所	23
HT看護専門学校学園祭(事前授業併用型)	H保健所	11
C大学学園祭(事前授業併用型)	K保健所	11
T駅南口駅前広場(一般献血)	T市	15
A看護専門学校(一般献血)	O市	11

※いずれも献血併行型登録会

図1 愛知県内における新規登録者・取消者数
～2016年9月

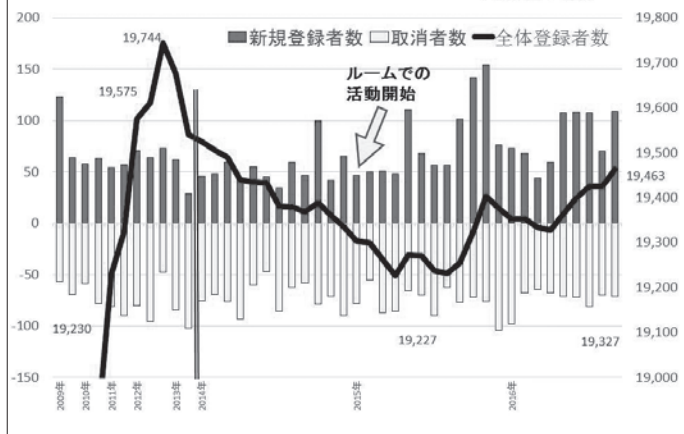
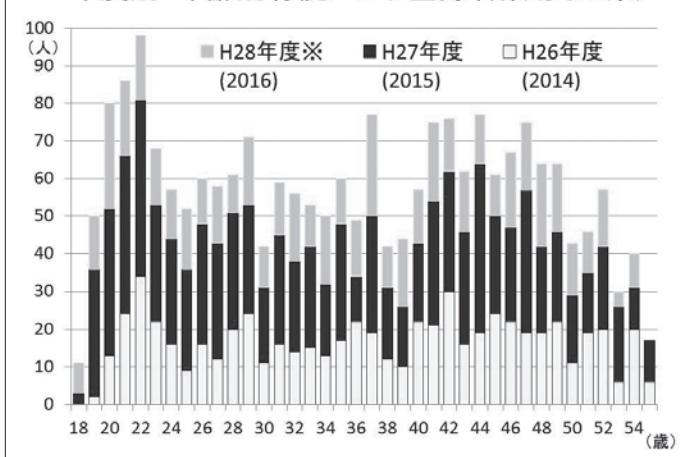


図2 年度別・年齢別骨髓バンク登録者数(愛知県)



の解説、演目はライブ音楽、マジック、和太鼓、ストリートダンスなどで演目の合間に、ドナーや患者に舞台上に上がっていただき、5分～10分程度のトークショーを行ないました。

あいちの会では、昨年から、イベント参加者の若者にも骨髄バンクの勉強を一緒にしていただく取り組みを行っています。今回も、一緒に参加した若者から骨髄バンクに登録したよとの報告を頂きました。骨髄バンクドナー層の高齢化が進む現在、少しでも若者に「骨髄バンク」の必要性、命の大切さを訴え続けることは、とても大切なことかと思えます。

まだまだ大きな「うねり」にはなっていませんが、少しずつ広がっていきばいいと思います。



渋谷に雪のゲレンデ、スノーバンク開催 ～青空に紅葉が映え、大勢の若者で大盛況～



SNOW BANK PAY IT FORWARD 2016 (一般社団法人 SNOW BANK 主催) が、11月12日(土)13日(日)の2日間、東京・渋谷区代々木公園イベント広場で開催されました。

会場に雪を降らせ、スノーボードと骨髄バンクをより多くの人に知ってもらい、アートや食や音楽にのせて、“楽しい”から始まる社会貢献の場を創造・共有するイベントです。2日間とも献血車が配置され、加盟団体のボランティアさんの協力により、骨髄バンクドナー登録者84人、献血者131人と大きな成果をあげました。

全国協議会では今年もブースをお借りし、ご家族連れにおもちゃすくいを楽しんでいただきました。トークイベントには長谷部健・渋谷区長も参加され「ドナー助成制度を導入したが、まだ対象者が出ていない。そのことについても考えていきたい」と話されました。

今年で6回目を数え年々盛大となり、多くの若い年代が骨髄バンクに触れる大切なイベントです。来年も11月11・12日に開催が決定しています。

主催のSNOW BANK様から全国協議会へご寄附をちょうだいしました。ありがとうございました。

基金給付を受けた方からの メッセージ

志村大輔基金 (精子保存支援)

息子は21歳で急性リンパ性白血病を発症しました。突然の病名に頭の中は真っ白になり、どうしていいか何も考えられませんでした。

医師から勧められた精子保存、今できる事をしてあげようと思う反面、費

用が高額なため心配にもなりました。母子家庭のため経済的に余裕がなかったのです。

そんな中、志村大輔基金の支援が大きな支えになりました。世間には病気で悲しく思いをしている人が沢山いることに気が付きました。

また、今回のように、患者や家族に寄り添って日々活動してくれている人達に感謝をするばかりです。現在息子はさい帯血移植を終えて、今は様々

な副作用を一つずつ乗り越えています。

元気になって自分の人生をしっかり生きたいと頑張っています。病気になり多くの人に助けられ、人の善意や優しさのありがたさを改めて感じたと言っていました。

感謝の言葉だけでは足りませんが、本当にありがとうございました。

(関東在住：患者の母)



コラム

コーディネート迅速化は、誰の仕事

今年6月・東京の会での医療講演で、日赤医療センターの塚田信弘先生は、「コーディネート期間短縮化は、医師の誰もが協力したいと思っている。主治医の立場からはお互いさまですから。日赤病院では骨髄採取を毎月1回行っているが、依頼があれば月にもう1回は出来るし協力したい。しかし、骨髄バンク事務局から何とかもう1件とか、急ぎでもう1件などの依頼は、一度も来たことがない。コーディネーターからも聞いたことがない。」と話された。みんなビックリして聞いていました。
(事務局・山崎裕一)

ボランティアあるある1コマ④ 杉本 ぼるみ





島根
しまねまごころバンク
映画上映会
 浜田市と松江市で開催

10月23日(日) 島根県立大学浜田キャンパスにて、しまねまごころバンク・骨髄バンク普及啓発ボランティアらいらっくの会の主催で、ドキュメンタリー映画「風のかたち～小児がんと仲間たちの10年～」上映会が開催されました。

このイベントは、らいらっくの会設立10周年・日本骨髄バンク設立25周



年の記念事業として行われもので、全国骨髄バンク推進連絡協議会も後援しました。

会場には学生、ボランティア、一般の方など約100人が参加され、上映前にはしまねまごころバンクの金築常務

理事(写真)、らいらっくの会田中代表が挨拶をされました。続いて、二度の骨髄提供(ドナー)をされた県立高校教諭の方からの体験談があり、若い人たちに積極的に登録してもらいたいと呼び掛けました。

映画は、伊勢真一監督、文化庁映画賞・日本カトリック映画賞を受賞された作品です。小児がんの子どもたちを記録した映像をもとに製作されたもので、観衆の琴線に触れる作品であり、いのちの大切さについて考えるきっかけとなりました。この映画会は、11月19日(土)に松江テルサ7Fドームシアターでも開催されました。

(理事 田中雄一郎)

都立江東商業高校生 事務所訪問



左より、金井駿之丞さん、二川真知子さん、大谷優芽さん

『社会の中で支え合い』などについて、体験学習を通じて自ら学ぶ姿勢を醸成し、将来の自己の進路選択に役立てるために「職場訪問インタビュー」を実施したいとの協力依頼が、都立江東商業高校からありました。

二年生3名が、当協議会事務局に来所されインタビューを受けました。「NPO法人の活動内容は？事務局員の役割と生きがいは何か？給料は、生活はどうしているのか？」など率直な質問が続きました。とても楽しく有意義な時間でした。みなさんの成長を楽しみにしています。生徒さんからのお手紙を紹介します。

11月2日(水)に、私を含めた本校の三人で東神田にある全国骨髄バンク推進連絡協議会に訪問しました。担当の山崎さんは丁寧に案内し、さまざまなお話を説明してくださいました。私たちも質問事項を用意していきまし

たが、ほとんどの事をパンフレットや山崎さんのお話で理解することができました。

今、ドナーの登録者数は46万人、登録をされていて年間1300人が骨髄を提供して助かっているそうです。でも、まだまだたくさんの方が骨髄移植を待っている方がいるようです。最近では出産の時に捨てていた、さい帯血を利用する方法も推進されているそうです。私の父も約25年前にドナー登録をしています。何度か聞いていたのでとても興味がありました。私も18歳になったらドナー登録をして、多くの患者さんの力になりたいと思います。今回の訪問はとても良い勉強になりました。(都立江東商業高校2年生 二川 真知子)

**新教科書「人間と社会」
東京都立高校に採用**

本年度より、全ての東京都立高校に採用された新教科書「人間と社会」では、人間としての在り方、生き方に関する学びを進めている。その目的は、これからより良い社会を築いていくために、どのように社会へ貢献していかせるかを学ばせること。例えば、「自然と人間の関わり」について環境保全活動に参加したり、「働くことの意義」というテーマで、様々な職業について調べさせたり、日本NPOセンターから講師の先生を招き、非営利組織について勉強したりしている。

賛助会員の皆さま紹介 (敬称略)

【一般賛助会員】 酒井俊郎=北海道▽近畿大学医学部奈良病院血液内科、匿名=奈良▽株式会社中村酸素=広島

心からのご寄付に感謝申し上げます ● 10月21日～11月20日 (敬称略)

●一般	鈴木 純子 現金 1,348円	日根 和美 現金 10,000円
カ)コウエキシャ 現金 74,764円	匿名 現金 10,000円	大泉 二郎 現金 20,000円
一般社団法人SNOW BANK	匿名 現金 5,000円	匿名 現金 3,000円
	としまふれあいパズル募金箱	●志村大輔基金
藤波 敬子 現金 50,000円	現金 16,868円	貞利 紀代子 現金 10,000円
塩谷 泰人 現金 1,000円	スノーバンク募金箱	●募金箱
向山 美穂子 現金 2,000円	現金 17,380円	株式会社クスリのアオキ
岩田 顕 現金 10,000円	●佐藤さち子患者支援基金	現金 918,643円
梅田 正造 現金 10,000円	公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構	●かざして募金
豊田 さやか 現金 5,000円	現金 10,437円	現金 2,500円
金井 誠一 現金 10,000円	三森 裕 現金 30,000円	
鈴木 あや子 現金 10,000円	竹田 幸子 現金 5,000円	

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754
 普通 5666655

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会